



特集

「好き」を掛け合わせて、
二刀流に。

「好き」を掛け合わせて、 二刀流に。

「気になる分野が複数あって、進路を一つに絞れない」

そんな高校生の声を、よく耳にする。

医療の道、トレーナー、あるいはプレーヤー……。

一つだけに絞り込むことなく、複数の分野を掛け合わせられる、

本校独自の「ダブル・ラーニング制度」を紹介する。



photographs by Naohiro Kurashina

進路選びは、未来選び。だからこそ、分野選択に迷う人は多いだろう。中でも興味のある分野がいくつかあって、決め切れない人や、将来の夢に向けて強みをたくさん身につけておきたい人の頼れる味方となるのが、本校の「ダブル・ラーニング制度」だ。この制度を利用すれば、医療・スポーツ・トレーナー・英語の4分野から2つを選び、どちらも学ぶことができる。組み合わせは39通り。競技を続けながら、医療国家免許やトレーナーの資格取得を目指すなど、それぞれのやりたいこと、好きなことに合わせて学びの時間をカスタマイズできる。

実際、「高校で力を注いでいる競技を続けたいけれど、トレーナーになる勉強もしたい」「医療分野でも、スポーツ現場でも、人の役に立ちたい」といった思いを抱き、この制度を活用する学生が数多くいる。理学療法学科とソフトテニスコースで学ぶ、清家蒼人（せいけ そうと）さんもその一人だ。

ソフトテニスの経験も、医療現場で活かせる。

清家さんが理学療法士を目指したきっかけは、自身のケガと、車椅子生活を送る祖母の「歩けるようになりたい」という言葉。理学療法士になれば、スポーツ現場でも、日常生活でも、困っている人をサポートできるのではと思ったのだ。一方で、小学1年生から打ち込んできたソフトテニスを続けるか悩んでいた。そんな時、高校の先生から履正社専門の存在を聞き、どちらも諦めない選択肢が生まれた。

「高校3年生の時、ソフトテニス部でキャプテンになった経験が、両方学ぶ後押しになったんです。それまでは、自分のことだけ一所懸命に考えていましたが、キャプテンになるとチーム全体を見ないといけない。チームメンバーや他校の人とコミュニケーションを交わす機会が増えたことで、『この経験って、色んな人と関わる理学療法士にも活かせるな』と思って、『ダブル・ラーニング』で学ぶことを決めました」

この春から、清家さんはソフトテニスコースのキャプテンに。多くの強豪大学も参加する関西学生リーグ2部での優勝を目標に掲げ、日々奮闘している。「ソフトテニスコースにもう一人、理学療法学科で学ぶダブル・ラーニング仲間がいるのも心強いです」

理学療法学科のクラスメイトには、野球、バスケットボールを続ける仲間もいる。「助け合いながら勉強できるし、好きなスポーツの話もできて楽しい」と笑顔が弾けた。

仲間がいるから、頑張れる。

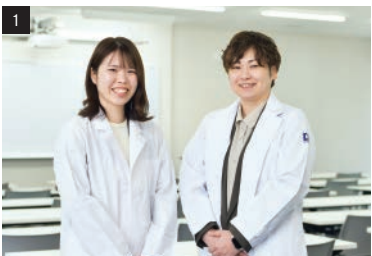
「ダブル・ラーニング制度」の「医療×アスレティックトレーナー（AT）」で、理学療法士とATを目指して学ぶ2年生の大山幸（おおく）さんも、仲間の存在が力になっていると話す。

「1年生の時に前期試験の結果が良くなって、慌てて『医療×AT』の友達に相談したんです。一緒に勉強すると、わかることが増えていき、どんどん授業も楽しくなってきました」

高校生の時は苦手だったという勉強を頑張れるのは、叶えたい目標の存在も大きい。大山さんの夢は、海外のスポーツ現場でATとして活躍すること。そのためは、強みが多い方がいい。だから、ATに加えて理学療法士の資格取得も目指せる履正社を選んだ。

「進路選択は悩みますよね。でも、進もうとしている道が本当に自分のやりたいことなら、大変そうだと感じても挑戦する価値があると思います」

履正社には「ダブル・ラーニング制度」で学び、医療機関やプロのスポーツ現場で活躍する卒業生も大勢いる。好きと好きが掛け合わせれば、学びたい気持ちも倍増。二刀流で、自分だけの道を切り開こう。



1 医療国家免許とAT資格を持つ教員が多数在籍し、両面でサポートする 2 「医療×パーソナルトレーナー」では、治療（柔道整復または鍼灸）と、ピラティスやヨガの指導もできるトレーナーを目指す 3 十三と箕面のキャンパス間は専用バスで移動可能